

LD Grooming × Training

『愛犬のごはん』



愛犬の健康を守るワンランク上の飼い主へ

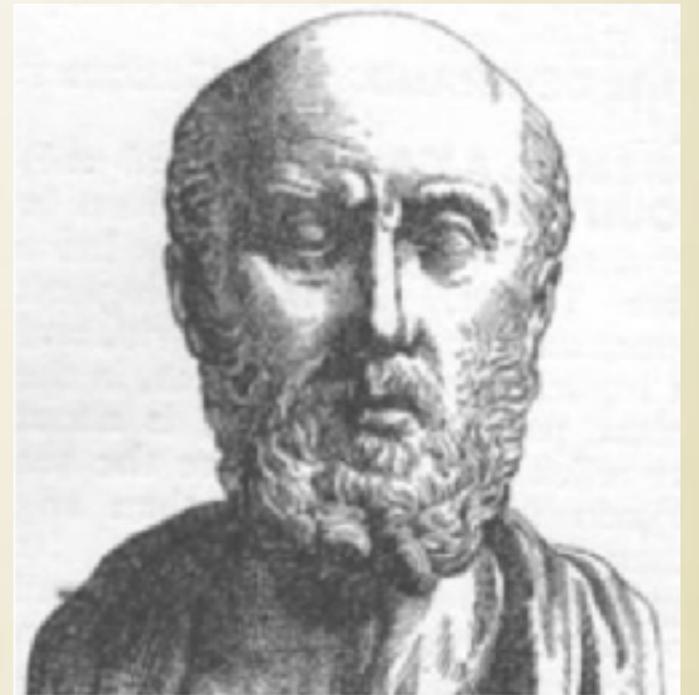
Work Schedule

- Story 1 私たちは食べたものでできている
- Story 2 食事の選択
- Story 3 種にあった食事
- Story 4 ペットフードのラベルを読む

あなたは普段、ご自身の食事は
どんなことを気にされていますか？

愛犬のごはんは
どんなものを与えていますか？

私たちは食べたものでできている



医学の父 ヒポクラテスの格言

『私たちは食べたものでできている』

You Are What You Eat

「火食は過食に通ず」

「月に一度断食をすれば病気にならない」

「満腹が原因の病気は空腹によって治る」

「汝の食事を薬とし、汝の薬は食事とせよ」

「病気は食事療法と運動によって治療できる」

「食べ物で治せない病気は、医者でも治せない」

「人間は誰でも体の中に百人の名医を持っている」

「賢者は健康が最大の人間の喜びだと考えるべきだ」

「病人の概念は存在しても、病気概念は存在しない」

「健全なる体を心掛ける者は完全なる排泄を心掛けねばならない」

「食べ物について知らない人が、どうして人の病気について理解できようか」

「人間がありのままの自然体で自然の中で生活をすれば120歳まで生きられる」

「病人に食べさせると、病気を養う事になる。一方、食事を与えなければ、病気は早く治る」

「病気は、人間が自らの力をもって自然に治すものであり、医者はこれを手助けするものである」

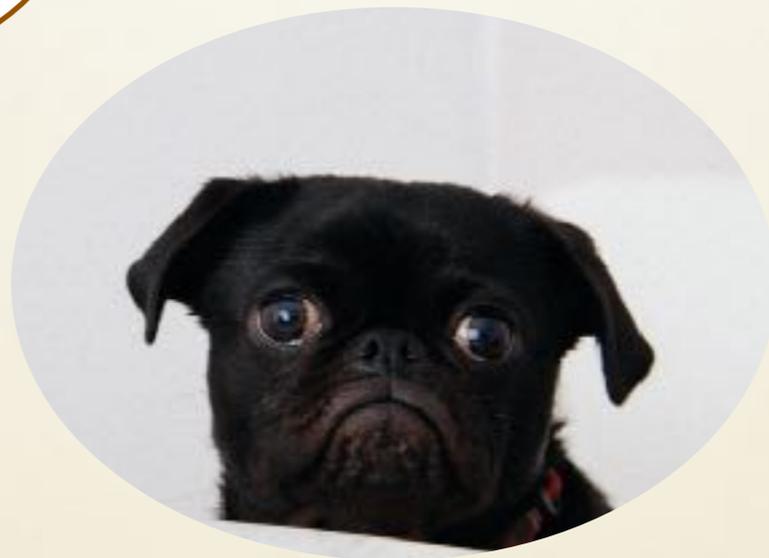
食事の選択肢

愛犬のご飯はなにがいいの？

ドッグフード

- ・ ウェット
- ・ 缶詰
- ・ セミモイスト
- ・ 犬種別フード
- ・ 療法食
- ・ プレミアムフード

...etc



手作り？

- ・ 加熱食
- ・ 生食
- ・ バーフ
- ・ 骨付き生食

それぞれの特徴

	ドライ	ウェット	セミモイスト
水分量	10%	75%	30~40%
嗜好性	普通	良い	やや良い
添加物・保存料	多い~少ない	多い	とても多い
価格	安い~高い	高め	やや高め
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料の懸念 ・炭水化物が多くなりがち ・タンパク質の不足が懸念 ・油の酸化 ・酸化防腐剤 (BHA・BHT) ・高度加工による栄養素の変性 (レンダリング・エクストルーダー・高温・高圧) 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質がドライより多 ・缶に使用されているBPAの懸念 ・缶やパウチ、レトルト ・長期保存も可能 ・添加物、保存料 	<ul style="list-style-type: none"> ・モチモチ柔らかくて飼い主が好む傾向あり ・添加物、保存料多い →保湿剤・品質安定剤 (プロピレングリコール・ソルビトールなど) ※特に猫さん注意

それぞれの特徴

	フリーズドライ	エアドライ	ローフード	手作り食
水分量	10%以下	10%以下	70~80%	70~80%
嗜好性	良い	良い	とても良い	とても良い
添加物・保存料	なしor少量	なしor少量	なしor少量	なし
価格	高い	高い	とても高め	材料による
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・真空凍結乾燥 ・生食の栄養素に近い(=ではない) ・水かぬるま湯で戻す ・栄養素が変性しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気乾燥 ・生食の栄養素に近い(=ではない) ・水かぬるま湯で戻す ・栄養素が変性しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・種に適した食事の理想に近い ・生肉75%(内臓あり) ・穀物フリーが主流 ・最低限の加工のため栄養分がそのまま ・水分量も豊富 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料が見える ・栄養バランスの管理が難しい ・理想に近い食事が可能 ・水分量豊富 ・添加物を最小限にできる

ドライフードの選択

総合栄養食とは？

- 「このフードとお水さえ与えておけば必要な栄養素は取れますよ」というもの
- 「ペットフード協会」が認定
- 以下のどちらかの基準をクリア

）成分分析試験

> フードの成分が一定の基準を満たすかどうか？

> 基準はペットフード協会が設定したもの = **AAFCO基準と同じ**

）給与試験評価

> 実際に与えてみて問題が起こらないことを確認する試験

> 8頭の動物に26週間食べさせて健康状態などを評価

AAFCO

(American Association of Feed Control Officials)

【アメリカ飼料検査官協会】

- 1909年に設立
流通飼料全般の安全性確保や品質保証に携わっていた
- 半官半民の組織
- 国立研究協議会（NRC）の養分要求量を元に実用的な「養分基準」を作成し、これは現在のペットフードの基準になっている
- 不良品の取締りや表示方法の規制も行っている
- 1960年代からペットフードも対象とするようになった

総合栄養食の表示

- I) 「この商品は、ペットフード公正取引協議会の定める分析試験の結果、総合栄養食の基準を満たすことが証明されています。」

- II) 「この商品は、ペットフード公正取引協議会の定める給与試験の結果、総合栄養食であることが証明されています。」

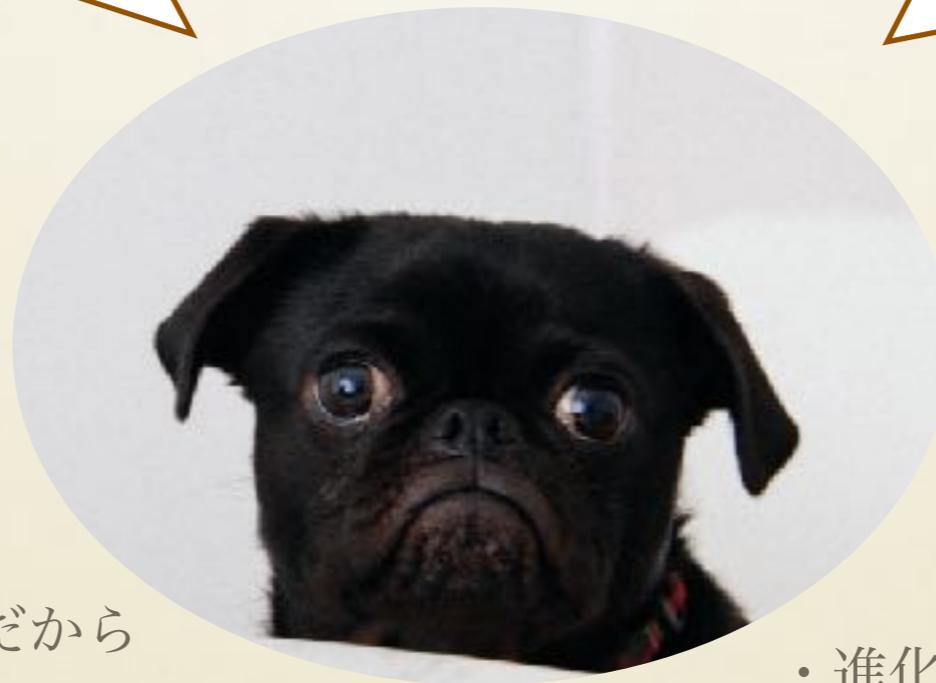
「ペットフード公正取引協議会」がペットフードの表示に関する公正競争規約を提示し、これが日本のペットフードの表示のスタンダードになっている。

種にあった食事

種にあった食事とは？

肉食？

雑食？



- ・元々先祖がオオカミなのだから
- ・食事はお肉がメイン
- ・生のお肉をあげるべき
- ・お米はあげるべきではない

...etc

- ・進化の過程で雑食能力も獲得した
- ・お米をあげても良い
- ・野菜も魚もなんでもあげて良い

...etc

体が必要としている栄養素

3大栄養素の比較

人

	タンパク質	脂質	炭水化物
厚生労働省	13~20%	20~30%	50~65%
米国USDA	10~35%	20~35%	45~65%
AAFCO(Minimum)犬	19%	12%	69%
AAFCO(Minimum)猫	25%	21%	53%

参考：比較統合医療学会一般セミナーより

野生における自然な食事

3大栄養素量

	タンパク質	脂質	炭水化物
猫	52%	46%	2%
犬	49%	44%	6%

参考：比較統合医療学会より

ペットフードの中身を見る

ラベルを読む

●保証分析値

	表示%
粗タンパク質	25%以上
粗脂肪	18%以上
粗繊維質	3%以下
粗灰分	8.5%以下
水分	10.0%以下



●乾量ベース

ドライベース%
27.8%以上
20.0%以上
3.3%以下
9.4%以下

Point 1 .

保証分析値は重量ベースなので乾量ベースに計算しなおす

$$\text{表示}\% \div (1 - \text{水分}\%) = \text{乾量ベースの}\%$$

ラベルを読む

Point 2.

炭水化物の容量記載はないため自身で計算する

●乾量ベース

	ドライベース%
粗タンパク質	27.8%以上
粗脂肪	20.0%以上
粗繊維質	3.3%以下
粗灰分	9.4%以下
水分	



例)

全体100% - タンパク質 (27.8%)

- 脂質 (20.0%)

= 炭水化物 **52.2%**

※繊維質は広義の炭水化物に含むことにした場合

※灰分は考慮せず簡略化

ラベル例

■ 原材料
 肉類(チキン等)、糖類、豆類、たん粉類、穀類、魚介類、油脂類、野菜類(にんじん、かぼちゃ、ほうれん草等)、食物繊維、グルコサミン(カニ由来)、フィッシュコラーゲンペプチド、サメ軟骨抽出物(コンドロイチンを含む)、ミネラル類(リン酸カルシウム、塩化ナトリウム、炭酸カルシウム、硫酸マグネシウム、亜鉛、硫酸鉄、硫酸銅、炭酸マンガン、ヨウ素酸カルシウム)、増粘安定剤(グリセリン、カゼインナトリウム)、品質保持剤(プロピレングリコール)、保存料(ソルビン酸カリウム)、pH調整剤、ビタミン類(E、コリン、C、A、ニコチン酸、パントテン酸、B₁₂、B₆、B₁、B₂、葉酸、D)、酸化防止剤(エリソルビン酸ナトリウム、ミックストコフェロール、ローズマリー抽出物)、着色料(二酸化チタン、黄5、赤106、青1、黄4、赤102)、発色剤(亜硝酸ナトリウム)

■ 内容量 1.08kg (小分け 10 パック)

■ 成分表

たん白質	[Protein]	12.0%以上 [Min]
脂質	[F a t]	4.0%以上 [Min]
粗繊維	[F i b e r]	7.4%以下 [Max]
灰分	[A s h]	8.0%以下 [Max]
水分	[M o i s t u r e]	35.0%以下 [Max]

ラベル例

■ 原材料名

穀類(小麦粉、コーンフラワー、小麦グルテン)、大豆たんぱく、肉類(国産チキン、国産鶏レバー、ビーフ)、糖類(ショ糖オリゴ糖)、油脂類(動物性油脂、 γ -リノレン酸)、野菜類(トマト、ニンジン、ホウレンソウ)、小魚粉末、チーズ、プロビレングリコール、ミネラル類(カルシウム、リン、ナトリウム、クロライド、銅、マンガン、亜鉛、ヨウ素、コバルト)、ソルビトール、保存料(ソルビン酸カリウム、デヒドロ酢酸ナトリウム)、ポリリン酸ナトリウム、着色料(二酸化チタン、食用赤色106号、食用黄色4号、食用黄色5号、食用青色1号)、酸味料(クエン酸、リンゴ酸)、ビタミン類(A、B₂、B₁₂、D、E、コリン)、香料、グルコサミン、メチオニン

ルコサミン、メチオニン

■ 保証成分

たんぱく質	15.5%以上	水分	30.0%以下
脂質	5.6%以上	カルシウム	0.7%以上
粗繊維	3.0%以下	リン	0.6%以上
灰分	8.0%以下	リノール酸	0.7%以上

■ 代謝エネルギー 265kcal/100g

■ 内容量 960g(80g×12)

■ 原産国名 日本

■ 保存方法

お取り扱いください。

注意したい添加物・化学物質

名称	効果	懸念点
ブチルヒドロアニソール (BHA)	油脂などの酸化防腐剤	コーンタールや石油製品から合成される合成酸化防止剤。セットで使用されることが多く同時に摂取した場合の安全性は全く検討されていない。変異原性が認められ催奇形性の疑いあり。多数の国で食品への添加が禁止されている。日本では限定使用が認められている。(バター・マーガリン・魚介冷凍品・チューインガムなど)
ジブチルヒドロキシトルエン (BHT)		
ビスフェノールA (BPA)	プラスチックや缶等のコーティング・安定剤	いわゆる環境ホルモンの懸念。欧米ではBPAフリーと書いてある製品があるくらい
エトキシキン	保存料・酸化防止剤	合成酸化防止剤。殺虫剤や合成ゴムの硬化剤にも使用される。発がん性がある。日本では使用が許可されていないがアメリカで使用が認められている。輸出入されるフィッシュミールに添加が定められている。
プロピレングリコール	保湿剤・防カビ 潤滑剤・乳化剤	エチレングリコールよりは毒性は低いとされるが血液毒性が認められている。セミモイストタイプのフードに使用されている。FDAよりキャットフードへの使用は禁止されているがドッグフードへの使用は禁止されていない。猫では赤血球が壊れて貧血を起こす可能性がある。

添加物・化学物質の例



洗浄剤はホタテシェルパウダー、ホタテの力、重曹、野菜洗浄剤、
などの商品名で多数販売されている

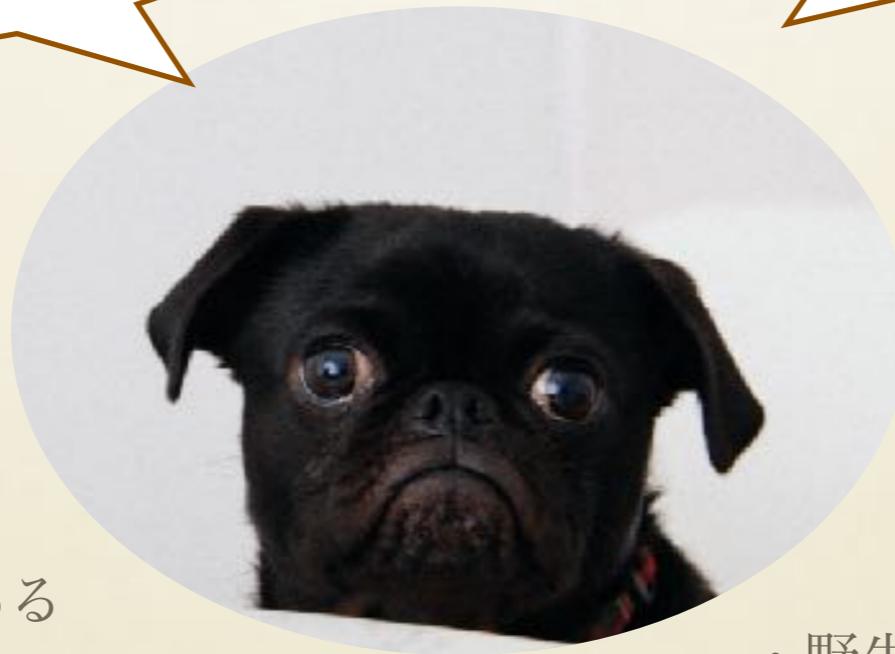
100%は避けられない

添加物・化学物質を
100%避けることはできないが
極力避ける努力はできる

種にあった食事

手作り加熱食？

手作り生食？



- ・ 生は細菌などの危険がある
- ・ 加熱処理した方が安全
- ・ 酵素は必要か？
- ・ 生は体を冷やす

...etc

- ・ 野生の食事は生だから
- ・ 酵素は加熱処理に弱い
- ・ 加熱すると失われる栄養素がある

...etc

食事の量

ラベルの表示はあくまで目安

「太る＝多い」
「痩せる＝少ない」

+

運動・食事の質を見直してみる

肥満は100%飼い主の責任

ラベルの分量しかあげていない…
1回○○グラムしかあげてない…



日々の食事内容やライフスタイルから愛犬の適正量を把握する

まとめ

理想的なフードは？

- 手作り食
- 市販のローフード
- エアドライ
- フリーズドライ
- ウェット・缶詰
- ドライフード



理想

ベストよりベターな選択を

予算・ライフスタイルに合わせて
無理のない範囲でより良い選択をして
続けていくのが良い

飼い主さんの負担になりすぎでは
愛犬にも悪影響

愛犬の「こころ」と「からだ」の
健康を守るのはトリマーでもトレーナー
でもなく飼い主さまだけ

Fin.

～本日はありがとうございました～



愛犬の心身の健康を守るワンランク上の飼い主へ